

【参考資料 2】

令和 6 年能登半島地震における建築物構造被害の原因分析を行う委員会（第 2 回）
（第 25 回 建築構造基準委員会）

議事要旨

日時：令和 6 年 6 月 17 日（月）17:00～19:00
国土交通省住宅局局議室（web 形式との併用）

1 開会

2 議事

（1）能登半島地震における現地調査等に基づく被害状況報告等

- ① 国総研・建研による調査概要
- ② 地震動の概要・余震観測の状況報告
- ③ 木造の被害状況報告等
 - 1) 悉皆調査に基づく建築時期別の木造建築物被害状況の集計
- ④ 鉄筋コンクリート造・基礎地盤の被害状況報告等
 - 1) 鉄筋コンクリート造の被害状況報告
 - 2) 傾斜等の被害のあった鉄筋コンクリート造及び基礎地盤の調査方針
- ⑤ 津波の被害状況報告
- ⑥ 鉄骨造・非構造部材の被害状況報告
- ⑦ 地震地域係数と近年の地震発生状況
（以上、説明のみ）

（2）質疑応答

<②地震動について>

- ・輪島市内に今回設置した地震計による余震観測のデータについて、強震観測網（K-NET）との比較や各測定点での卓越周期など、引き続き分析を進めてほしい。

<③木造について>

- ・木造建築物の悉皆調査を行った地域のうち、建築年が 2000 年以降で倒壊・崩壊となった建築物が数棟あるとのことだが、これらの被害原因について明らかにしてほしい。
- ・築年数が 1981～2000 年で倒壊・崩壊にいたらなくとも大破となった建築物も含めて被害要因の分析を行ってほしい。
- ・調査対象地域には 2007 年 3 月の能登半島地震や 2023 年 5 月の能登地方の地震で被害を受けて除却等された建築物もあったと思うが、その影響により今回の地震で倒壊・崩壊が相対的に少なくなっている地域があるか検証してほしい。
- ・重い土葺きの瓦屋根の建築物が多いことや風雪による劣化の影響など、能登地方の地域特性も分析の際に考慮してもらいたい。
- ・液状化と木造建築物の被害との関連についても可能であれば調べてほしい。

<④鉄筋コンクリート造・基礎地盤について>

- ・RC 造等の被害について、現時点までの調査分析では上部構造には問題が無かったとみられる

が、杭基礎の損傷等に起因すると思われる建築物の転倒や沈下・傾斜の被害要因については、引き続き現地調査等を進めて検討してもらいたい。

- ・どの地域にどの程度の建築物の沈下があったのかについて、可能であれば整理できればよい。
- ・転倒した建築物については現地調査・解析等の上で転倒に至ったシナリオを検証していくことになるが、同じシナリオを別の転倒していない建築物に当てはめた場合に転倒に至らないことが説明できるかといった観点でも検証してもらいたい。
- ・沈下・傾斜した建築物で公共機関が管理するものについては、当該公共機関としっかりと連携して調査を行ってもらいたい。

<⑥鉄骨造・非構造部材について>

- ・鉄骨造の被害については、倒壊・崩壊した建築物は旧耐震基準のものと考えられる。
- ・非構造部材では部分的な被害が確認されているとのことだが、特定天井におけるブレースによる補強以外の補強方法の事例が把握できれば効果の検証をしてもらいたい。

<⑦地震地域係数と近年の地震発生状況について>

- ・地震地域係数が0.9であることで被害が拡大したということではないが、地震地域係数の低いところでも実際に大きな地震動が観測されている。委員会では地震地域係数のあり方について、どこまで検討するか。

→本委員会において検討の必要性についての提案があれば、委員会とは別に検討してまいりたい。

<その他について>

- ・建築物の使用継続性や復旧・復興容易性等についても検討を進め、報告してほしい。

(3) その他

- ・((一社) 日本免震構造協会より、免震建物の調査結果について報告があった。)

3 閉会

以 上